



『語彙ドン! vol.1 -大学で学ぶためのことば-』 の効果的な使い方

石澤 徹(東京外国語大学)

教材開発の背景—問題意識—

- ▶ 大学などで日本語で学ぶには講義理解・解説文理解が不可欠
 - ⇒ 学術場面で使われる**語彙の重要性**
- ▶ 必要とされる語彙量
 - ⇒ **中上級で急増**
- ▶ 学習・指導時間は限られていて、語彙に時間を割けない
 - ⇒ **学習者任せ・暗記**

学習者は **消化不良!**
ことばの使い方・・・のまえに、
学び方がわからない・慣れていない



教材開発の背景—問題意識—

- 語彙学習の多様性・可能性
- 目的に合った学習の重要性
- 楽しく使える語彙教材がほしい
- 学習者のゴールとは？
⇒ 専門科目との／へのアーティキュレーション



👉 『語彙ドン！』開発へ

(公財)日本漢字能力検定協会

平成25年度漢字・日本語教育研究助成制度採択

『語彙ドン！』の特長

- ①大学や専門学校の授業でよく使われることばを
まとめて勉強できる
- ②いろいろな練習やゲームで楽しく勉強できる
- ③既習語彙を何度も使うチャンスがある
- ④オーセンティックな読み物を読むステップになる



「学術共通語彙」とは？

◆ターゲット語彙

⇒松下達彦(2011)日本語学術共通語彙リスト Version 1.01

- * 専門用語ではないが、勉強によく使われることば
- 新聞やニュースでもよく使われることば
- 意識的な学習が必要

レベル	ジャンル					
	上級	人文	社会	理工	生物	ドラマ・小説 のことば
中級	勉強によく使うことば ＝学術共通語彙					生活会話 のことば
初級	どんなジャンルでも使われる、よく使うことば					

頻度が下がる
だんだん難しく

より専門的に

学術共通語彙の学習→通常の3倍以上の効率でテキストカバー率が上がる

語彙ドン！ Vol.1の収録語の特徴

学術共通 語彙	語数	留学生用 語彙	語数	旧日本語 能力試験	語数
LV.0	64語	01K	44語	4級	0語
LV.1	390語	2K	261語	3級	64語
LV.2	146語	3K	145語	2級	374語
		4K	91語	1級	104語
		5K	59語	級外	58語

語彙ドン！Vol.1.収録語

語彙ドン！のVol.1だけでも、中級前半以降の広い範囲をカバー
→難解といわれることばでも重要度が高いものは早めに学び始められる
👉繰り返しであうため、学習効果も自然と高くなる

教材の構成

Step1 チェックでドン！

⇒ **メタ認知的**のストラテジーの強化・自律学習

Step2 例文・意味でドン！

⇒ 複数のターゲット語で構成された文脈のある**例文**

語彙表現がコントロールされた語釈

穴埋め例文

⇒ ウェブサイトに**音声**あり。豊富な**聴覚インプット**の重要性

教材の構成

Step3 ゲームでドン！

⇒意味を介したうえで、漢字、音韻、活用の意識化

Step4 読んでドン！

⇒学習した語彙が含まれる

⇒ターゲット語より難しい語彙も含まれるが、

予測・推測しながら読む練習でチャレンジ！

語彙学習活動としての工夫

◆1課あたりのターゲット語:30語

⇒既出語彙は積極的に新たな例文や練習に取り入れる

◆関連する語彙・文脈・表現の使用

⇒共起頻度が高い語彙をなるべく使った例文

⇒1語1例文だけでなく、ターゲット語同士のつながりの強化

難易度の調整と漢字のルビ判断

◆読み物

⇒教養科目11分野の新書から選定

リライト(J-LEX)

J-LEX

リーディングチュウ太

NINJAL-LWP for BCCWJ

<http://nlb.ninjal.ac.jp/search/>

Jreadability

<https://jreadability.net/ja/>

語彙学習活動としての工夫

—理論的背景—

◆ 単語学習における認知処理の深さ (Craik & Tulving, 1975)

⇒ 記憶に残りやすいのは、形態 < 音声 < 意味

◆ Nation (2001, 2007) What is it? , The four Strands

Laufer and Hulstijn (2001)

「かかわり度假説」

Meaning focused input
Meaning focused output
Language focused learning
Fluency development

◆ 音と文字の連合への意識

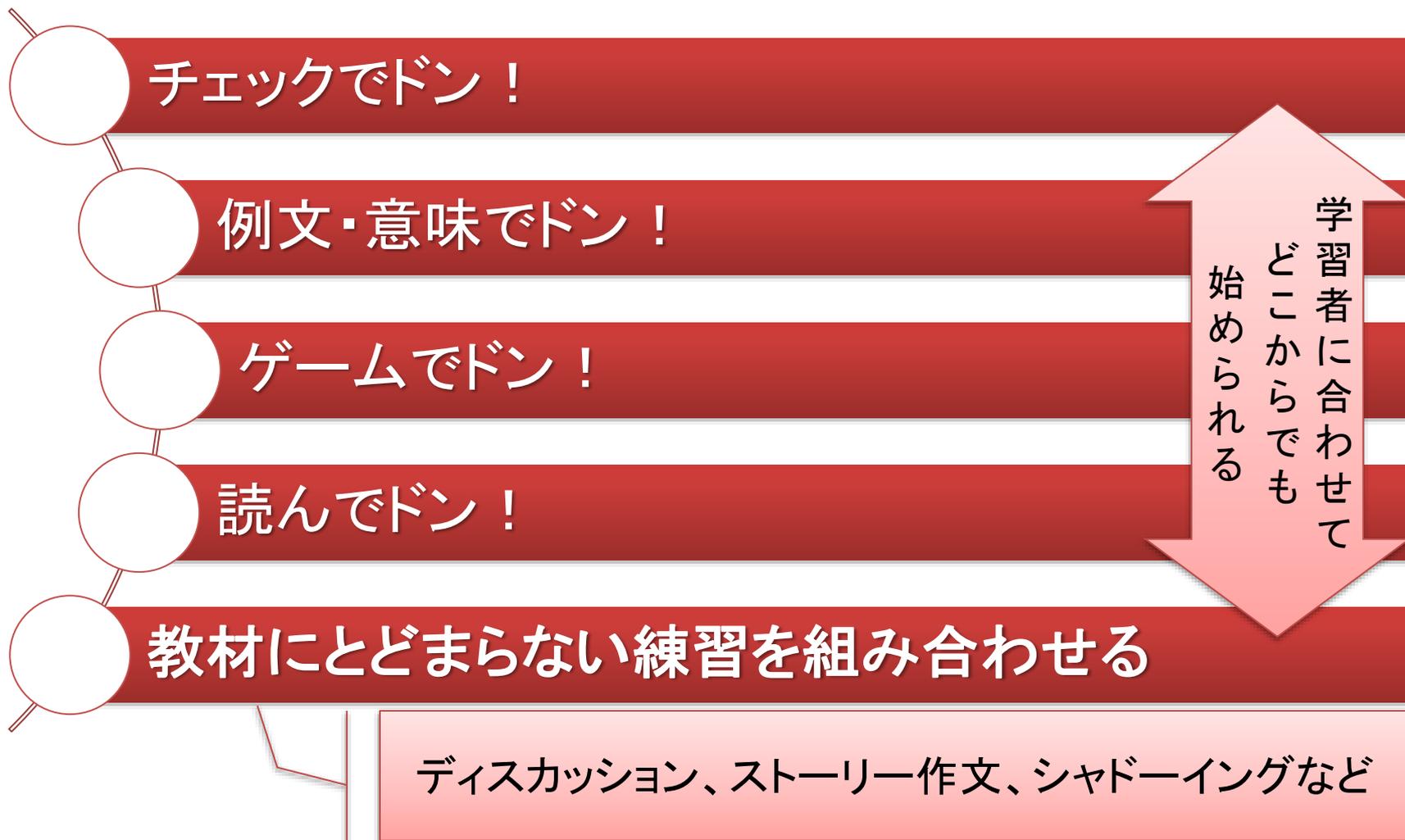
⇒ 漢字圏学習者：漢字で意味が分かることへの弊害の対処

◆ L1に頼らない学習のクセづけ

⇒ 日本語で「考える」機会をもつ

未知語に遭遇した時に推測できる力を養う

使用イメージ



学習者・機関からの感想・コメント

◆知っていると思ったのに、
ちゃんとわかっていなかった！

◆学習者がとても集中している。
楽しんでいるのがわかる。

◆楽しい！
まちがえると悔しいからまた挑戦！

◆簡単すぎず難しすぎない。
◆学生が自分で進めていた。



参考文献

- 石澤徹(2013)「日本語学術共通語彙データベースを利用した語彙教材の開発 —大学での学習を支える語彙の習得のために—」『漢字・日本語教育研究』3, 6-35.
- 石澤徹・岩下真澄・桜木ともみ(2016)「語彙教育について考えよう—教師の工夫と悩み—」『2016年度第1回日本語教育学研究集会予稿集』26-27.
- 松下達彦(2011)日本語学術共通語彙リスト Version 1.01
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html#jcaw>
- 松下達彦(2011)日本語を読むための語彙データベース Ver. 11
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html#vdrj>
- 松下達彦(2016)「コーパス出現頻度から見た語彙シラバス」、森篤嗣編『ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版, 53-77.
- 菅長陽一・松下達彦(2013)「日本語テキスト語彙分析器 J-LEX」
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/webtools.html#jlex><http://www17408ui.sakura.ne.jp/index.html>
- Anthony, L. (2013). AntWordProfiler Ver. 1.4.0w
<http://www.laurenceanthony.net/software/antwordprofiler/>
- Kawamura, Y., Kitamura T. & Hobara R. (1997) 日本語読解学習支援システム リーディングチュウ太 <http://language.tiu.ac.jp/>
- 李在鎬(2016)「日本語教育のための文章難易度研究」『早稲田日本語教育学』Vol. 21, pp.1-16.

参考文献

- Carik, F. I. M. & Lockhart, R. S. (1972) Levels of processing: A framework for memory research. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 11, 671-684
- Craik, F. I. M. & Tulving, E. (1975). Depth of processing and the retention of words in episodic memory. *Journal of Experimental Psychology: General*, 104, 268-294.
- Hu, M. H. & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13 (1), 403–430.
- Laufer, B. (1994). The lexical profile of second language writing: does it change over time? *RELC Journal*, 25 (2), 21–33.
- Laufer, B. & Hulstijn, J. (2001). Incidental vocabulary acquisition in a second language: The construct of task-induced involvement. *Applied Linguistics*, 22, 1-26.
- Laufer, B. & Ravenhorst-Kalovski, G. C. (2010). Lexical threshold revisited: Lexical text coverage, learners' vocabulary size and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 22 (1), 15–30.
- Nation, I.S.P. (1978). 'What is it?' a multipurpose language teaching technique. *English Teaching Forum* 16 (3), 20-23.
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Nation, I. S. P. (2007). The four strands. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 1 (1), 2–13.
- Nation, I. S. P. (2008). *Teaching Vocabulary: Strategies and Techniques*. Cengage Learning, Boston.



『語彙ドン! vol.1 -大学で学ぶためのことば-』 よろしくお願ひします